

欧州景気概況(2021年10月)

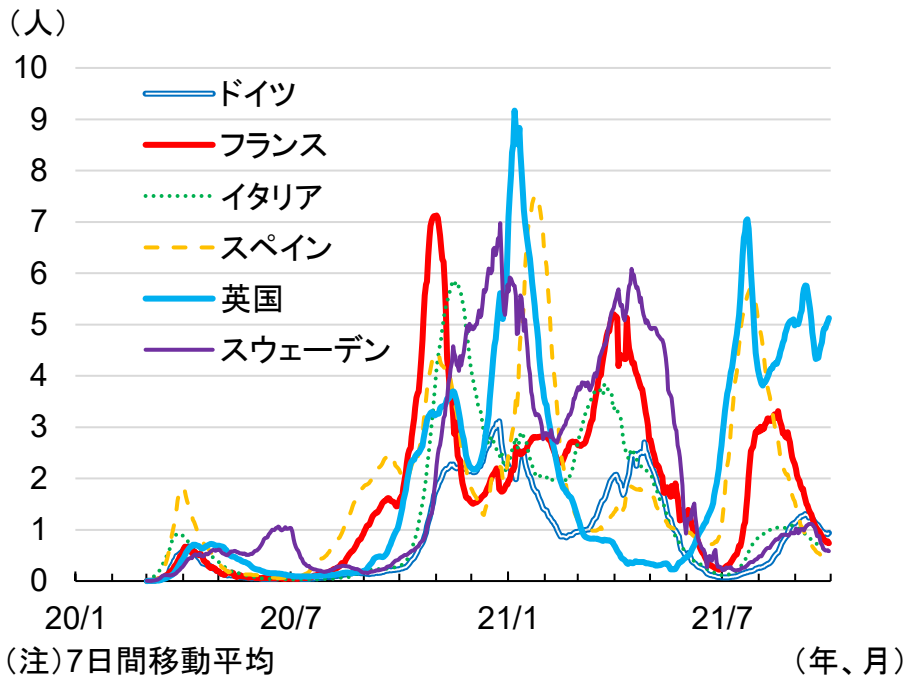
2021年10月4日

調査部 副主任研究員 土田陽介

新型コロナウイルスの感染状況

新型コロナウイルスの新規感染者数は、行動制限の緩和で先行した英国で高止まっているものの、大陸では減少している。各国ともコロナ共生を目指し、行動制限の再強化ではなく「ブースター接種」に活路を見出している。冬季を迎えるに当たり感染者数の急増が警戒される中で、行動制限が再び強化される可能性も。

人口一人当たりの新規感染者数



(注) 7日間移動平均

(年、月)

(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)及び英国民保健サービス(NHS)、国際保健機関(WHO)

主要国の行動制限の概要

国名	内容
ドイツ	6月30日で「緊急ブレーキ」措置が失効、各州で指標に応じた行動規制緩和を実施。
フランス	6月17日にマスク着用義務撤廃(除くイル・ド・フランス)。6月20日に夜間外出制限を撤廃。一部の国を除き入国が自由(日本人も出入国が自由、ただしワクチン接種証明か陰性証明書などが必要)。
イタリア	夜間外出禁止を撤廃。州を跨ぐ移動の制限も撤廃。各種商店・娯楽施設の再開(ただしダンスホール、ディスコは休止を継続)。
英国	イングランドが7月19日に行動制限の大部分を緩和。8月16日に隔離規制を緩和予定。スコットランドは8月9日に行動制限の全面解除を目指す。

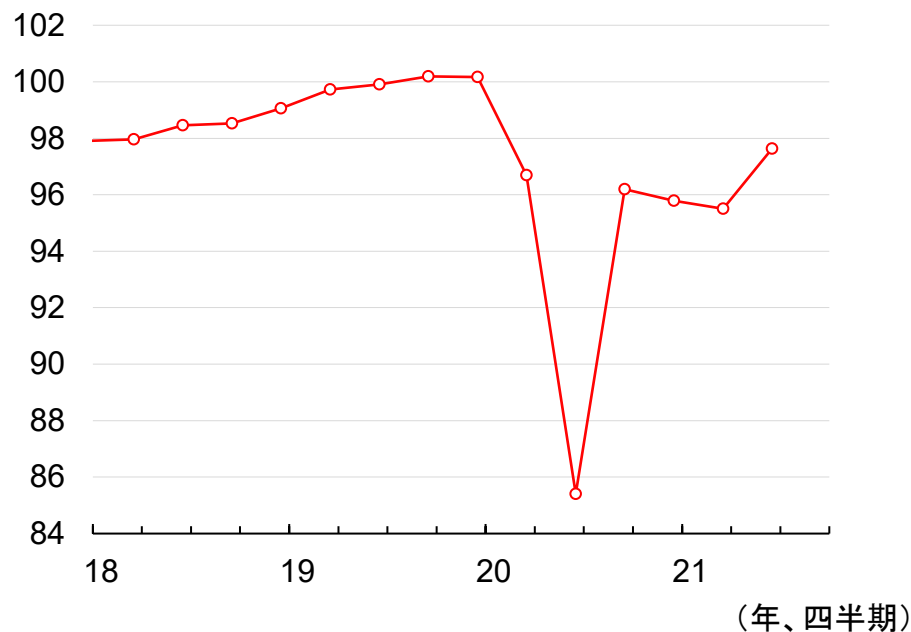
(出所) 各種報道

ユーロ圏景気概況① 景気は回復している

ユーロ圏の2021年4-6月期の実質GDP(確定値)は前期比+2.2%と3四半期ぶりに増加に転じ、景気後退を脱却した。一方で最新9月の景況感指数は117.8と再び上昇、高位横ばいで推移している。国別にはフランスで景況感指数の低下が目立つが、同国の場合は製造業のみならず、非製造業の景況感の悪化が顕著である。

実質GDP

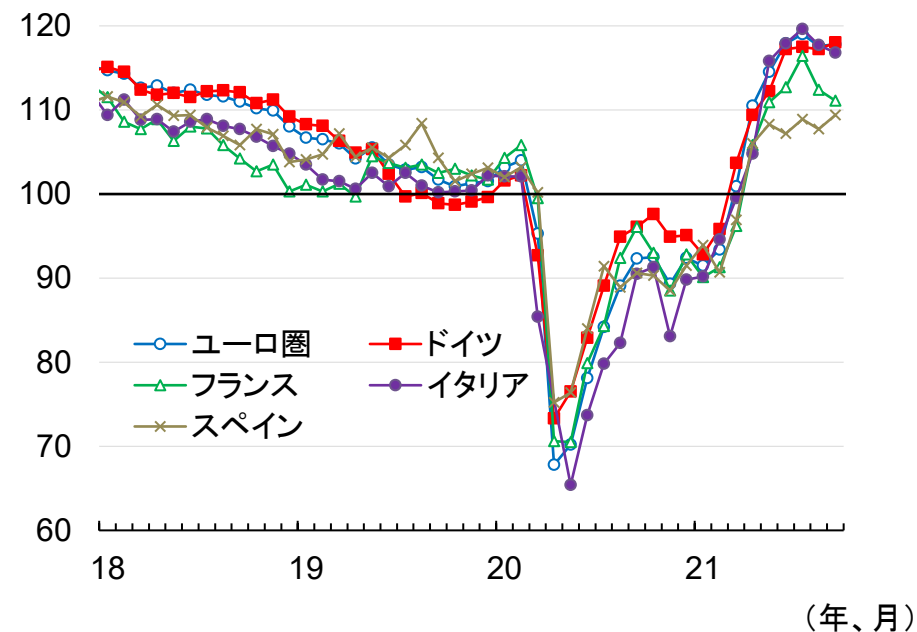
(2019年=100、季調済)



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

(長期平均=100)

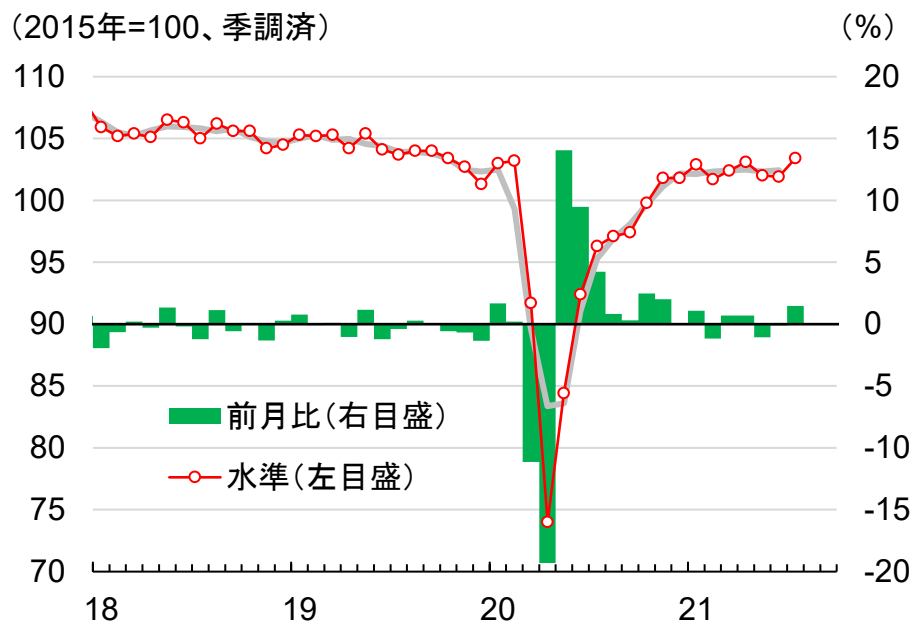


(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は横ばい

ユーロ圏の7月の鉱工業生産は前月比+1.5%と3ヶ月ぶりに増加も、均した動きは横ばいとなっている。鉱工業生産ベースで見た自動車生産台数が下振れしており、世界的な半導体不足の影響を受けた自動車の不調が生産全体の重荷となっていることが分かる。

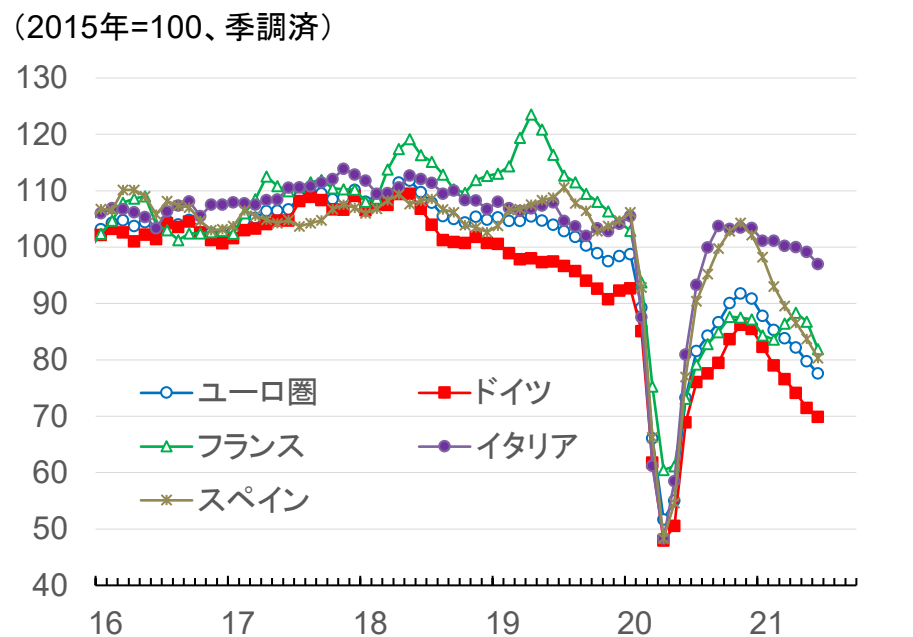
鉱工業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

(年、月)

自動車生産台数(鉱工業生産ベース)



(注) 3ヶ月後方移動平均
(出所) ユーロスタット

(年、月)

ユーロ圏景気概況③ 消費は拡大している

ユーロ圏の7月の小売数量は前月比-2.3%と再び減少したが、均した動きは拡大している。一方で8月の新車販売台数は前月比-3.8%の年率767万台と、一段と減少した。行動制限の緩和に伴う繰越需要が一服してきた一方で、半導体不足から新車の供給が停滞していることが、新車市場の不調につながっている模様。

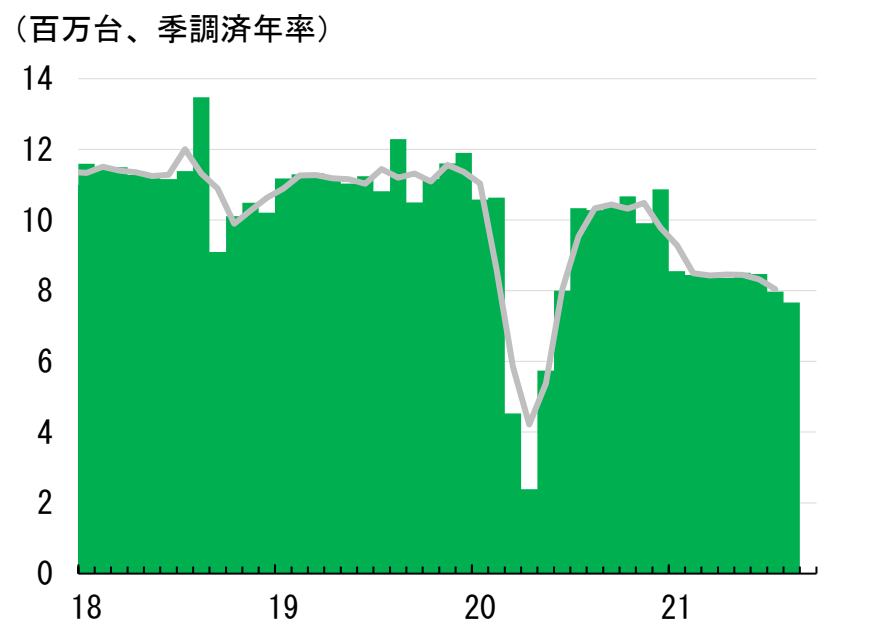
小売数量



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均

(出所) ユーロスタット

新車販売台数



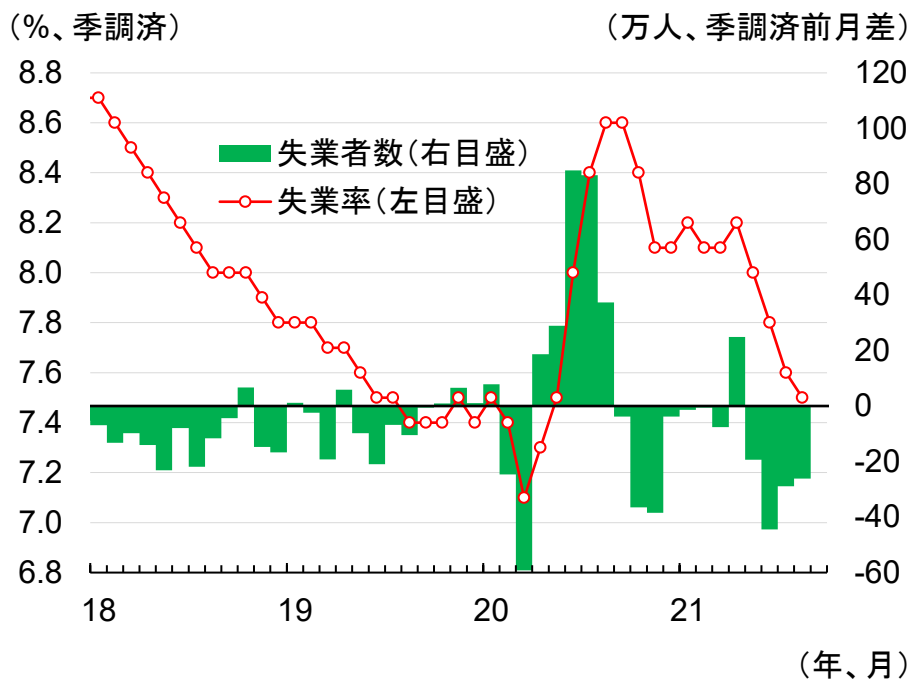
(注) 灰色線は3ヶ月移動平均

(出所) 欧州中央銀行 (ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用情勢は改善

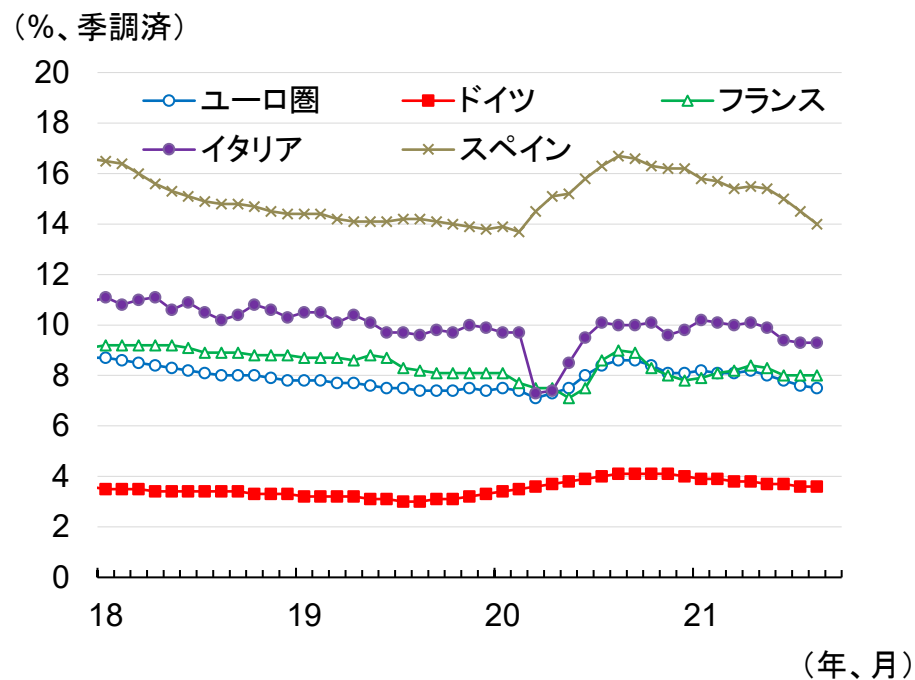
ユーロ圏の8月の雇用統計では、失業率が7.5%と4ヶ月連続で低下、失業者数は前月比26.1万人減と減少幅が2ヶ月連続で縮小したものの、雇用は改善している。主要国別に失業率を見ると、各国とも緩やかな低下基調を保っているが、ドイツでは下げ止まりの動きもみられる。

失業率と失業者数



(出所)ユーロスタット

主要国別失業率

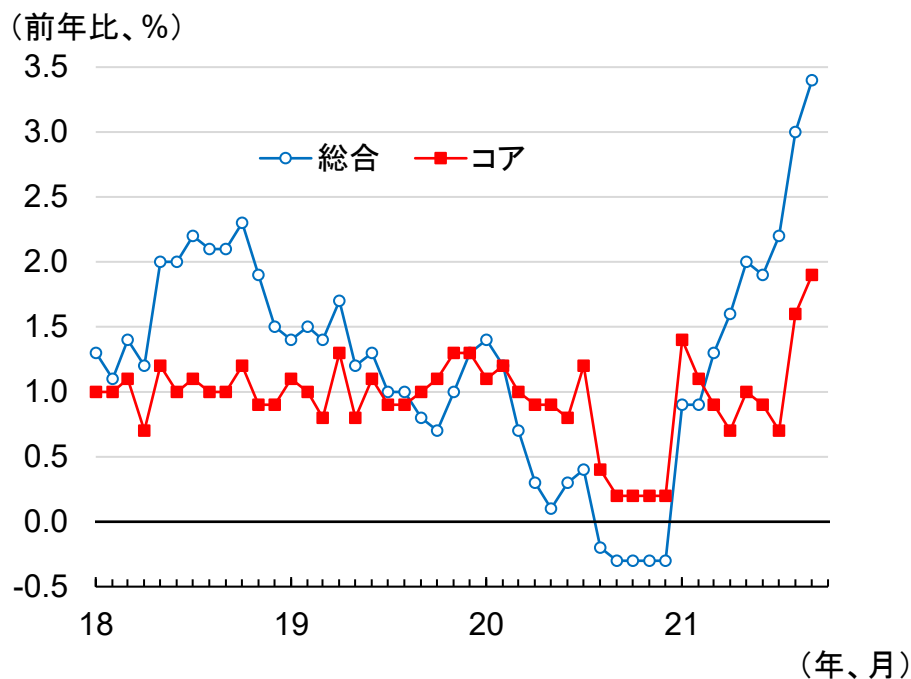


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ 物価はインフレが加速

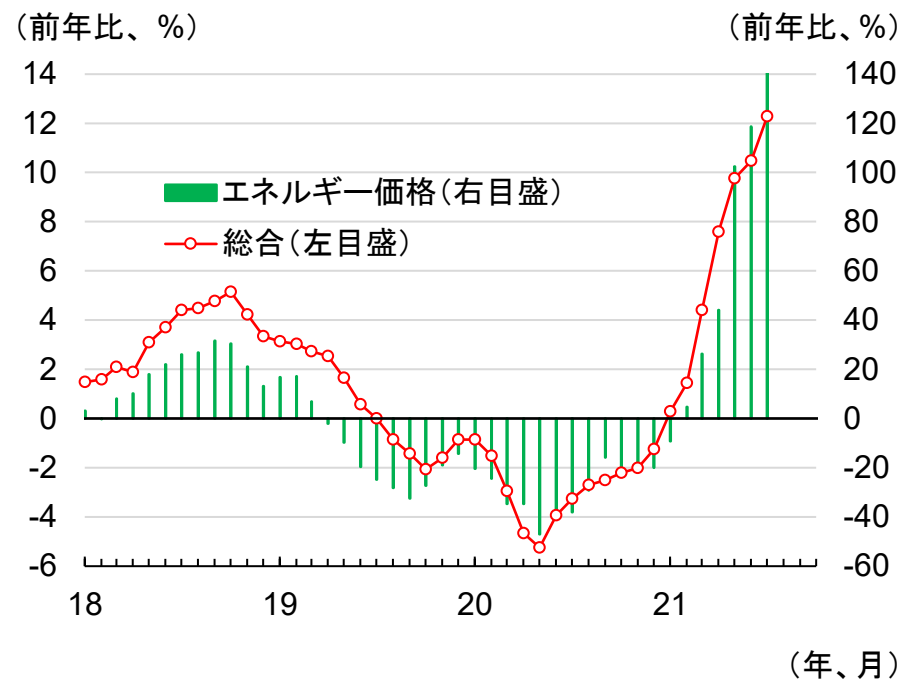
ユーロ圏の9月の消費者物価(速報値)は前年比+3.4%と上昇が一段と加速、およそ13年ぶりの高水準となった。先行指標である生産者物価は7月時点で前年比+12.3%と、エネルギー価格が高騰していることから、伸び幅の拡大が続いている。エネルギー価格高騰の背景には、主に天然ガス価格の急騰がある。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価



(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBはPEPPを修正

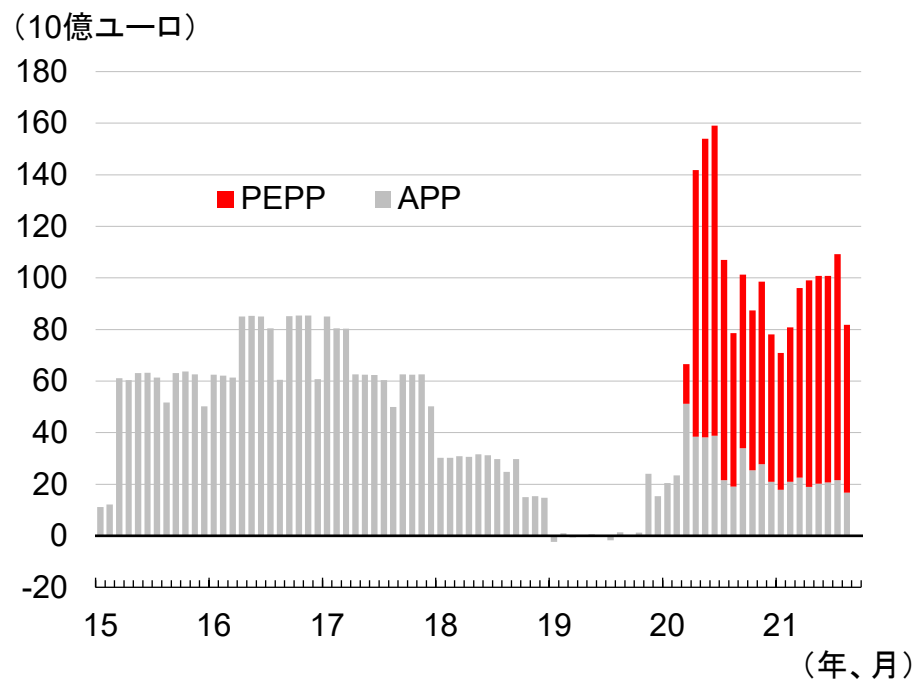
ECBは9月9日の政策理事会で既往の金融緩和パッケージの維持を決定。一方、パンデミック緊急購入プログラム(PEPP)の月次購入額を減額するとした。ラガルド総裁はこの措置がいわゆる「テーパリング」ではないことを強調、金融緩和の姿勢を強調した。次回の政策理事会は10月28日を予定。

ECBの金融緩和パッケージ

ECBの2020年12月理事会での決定の概要	
政策金利の据え置き	主要政策金利を既往の年0.00%に、また貸出金利を年0.25%に、預金金利を年-0.50%にそれぞれ据え置き。
資産購入策の強化	危機対応策であるパンデミック緊急対応プログラム(PEPP)での資産購入額を5,000億ユーロ増額して総額1兆8,500億ユーロに拡大。また期間を9ヶ月延ばして22年3月まで延長。再投資の期間も少なくとも23年末まで1年延長。 既往の資産購入プログラム(APP)は月額200億ユーロでの購入をオープンエンド型で継続。
資金供給策の強化	危機対応策であるパンデミック緊急リファイナンスオペ(PETLRO)を21年に4回追加 預金金利(現在▲0.50%)をさらに0.50%ポイント割り引いた水準(現状▲1.00%)で行う期間3年の資金供給策(TLTRO3)は22年6月まで期間延長。

(出所)欧州中央銀行(ECB)

資産購入の推移

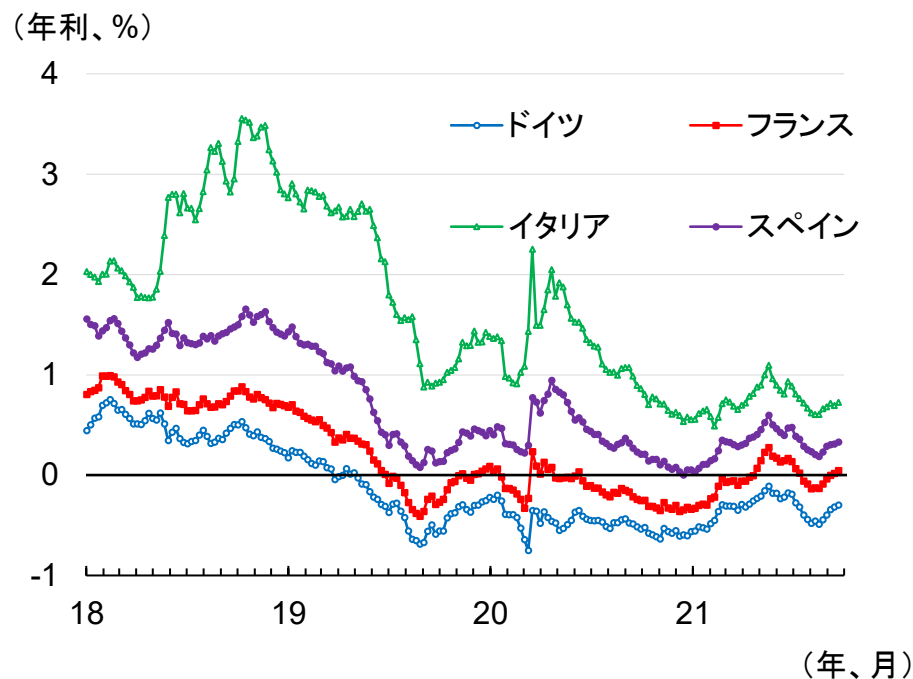


(出所)ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は上昇、株価は下落

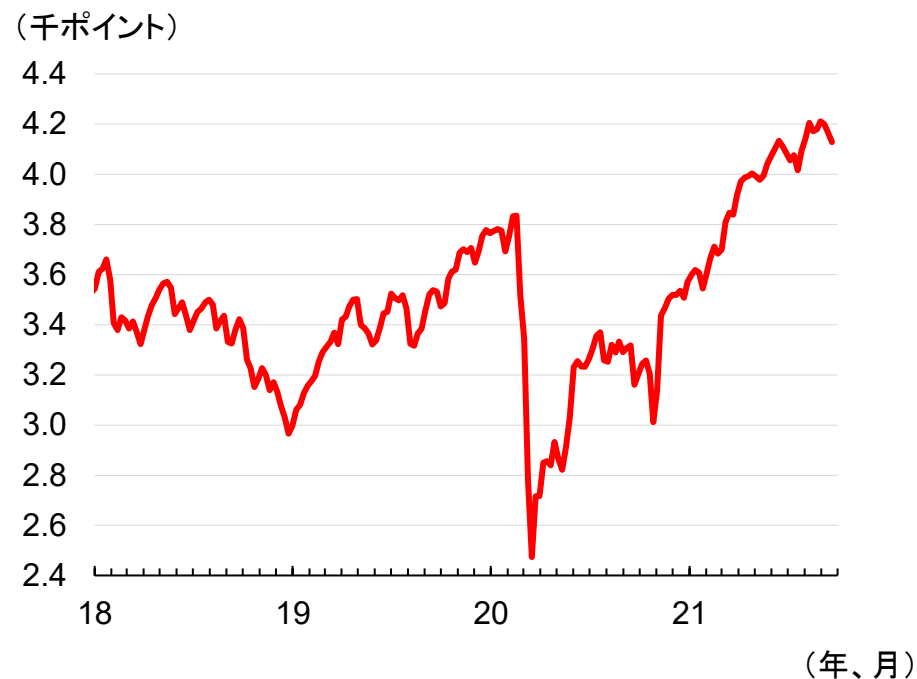
9月のユーロ圏の長期金利は上昇した。ECBが月次の資産購入を減額したことに加えて、米国発の長期金利上昇の流れが強まったことを受けて、ユーロ圏でも金利の上昇が進んだ。一方で株価(Eurostoxx50)は下落した。中国の不動産問題や米国の債務問題が相場の下落に拍車をかけた。

長期金利



(出所)ECB

株価(Eurostoxx50)

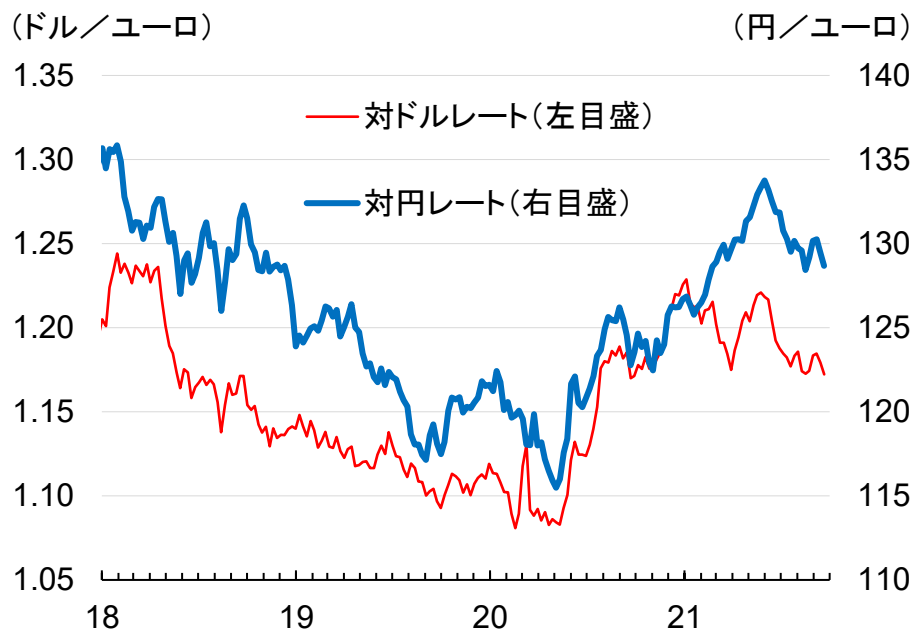


(出所)STOXX

ユーロ圏景気概況⑧ 対ドルでユーロ安、対円で横ばい

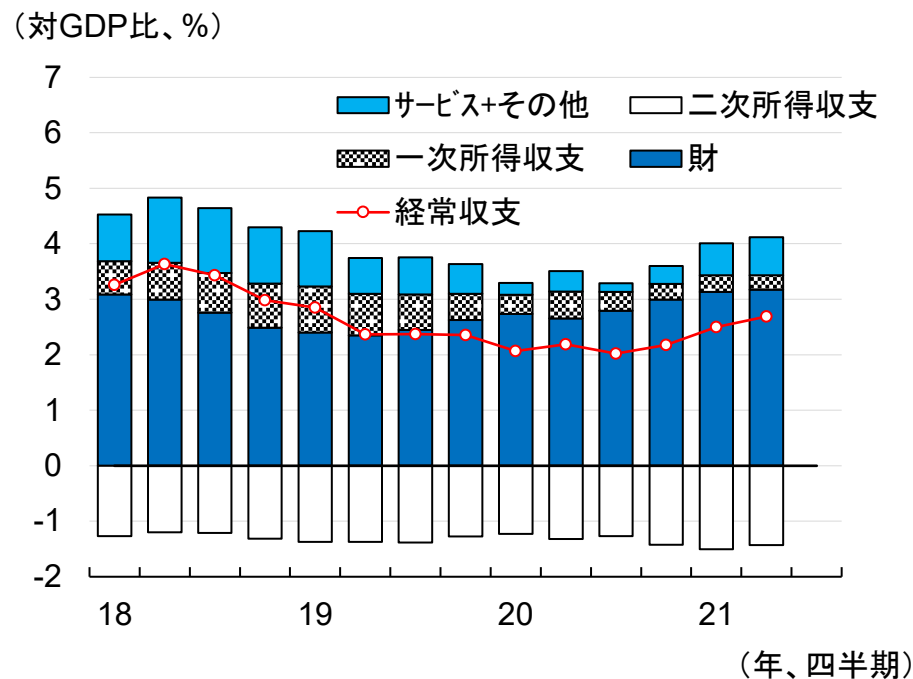
9月のユーロ相場は対ドルでユーロ安、対円で横ばい。対ドルでは、米連邦準備制度理事会(FRB)が11月にも量的緩和の段階的減額(テーパリング)を実施するという観測からドル買いが進んだ。対円では、材料に乏しい中で横ばいで推移した。国際収支は経常収支の黒字が拡大、実需面からのユーロ買い圧力はしっかりしている。

ユーロ相場



(注)週次レート
(出所)ECB

国際収支



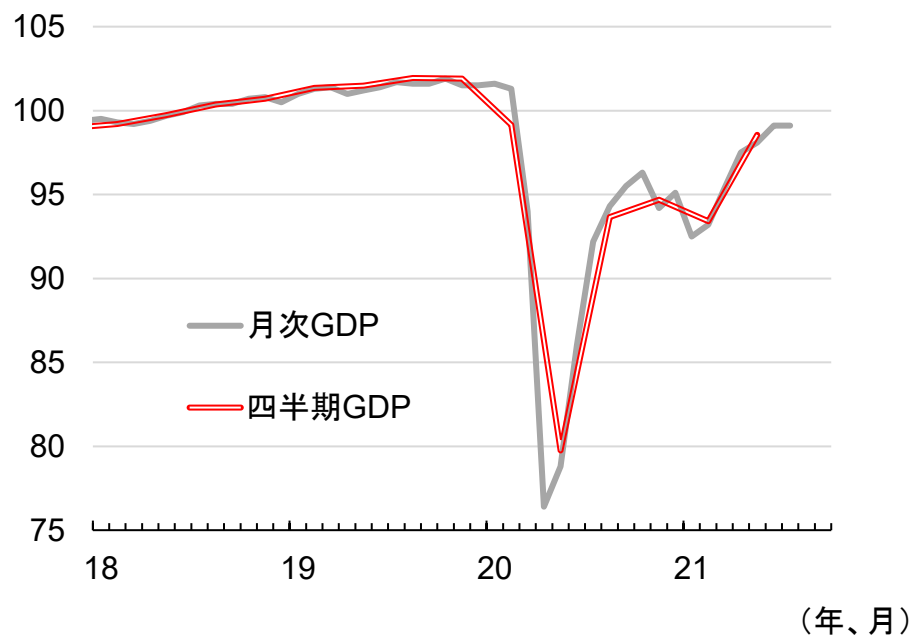
(出所)ECB

英国景気概況① 景気は回復している

英国の2021年4-6月期の実質GDP(確定値)は前期比+5.5%と再びプラス成長に服した。個人消費や政府支出が景気の回復をけん引した。もっとも、続く7月の月次GDPは前月比横ばいに留まった。モノ不足に伴う高インフレが景気回復の重荷となっており、英国景気は7-9月期以降、回復が減速すると考えられる。

実質GDP

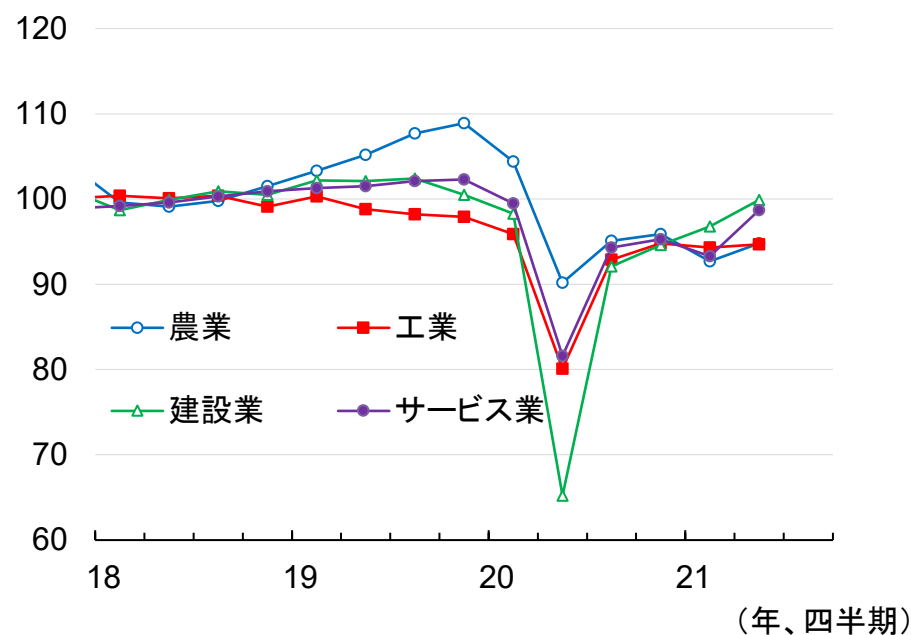
(2018年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

実質GVA(粗付加価値)

(2016年=100、季調済)

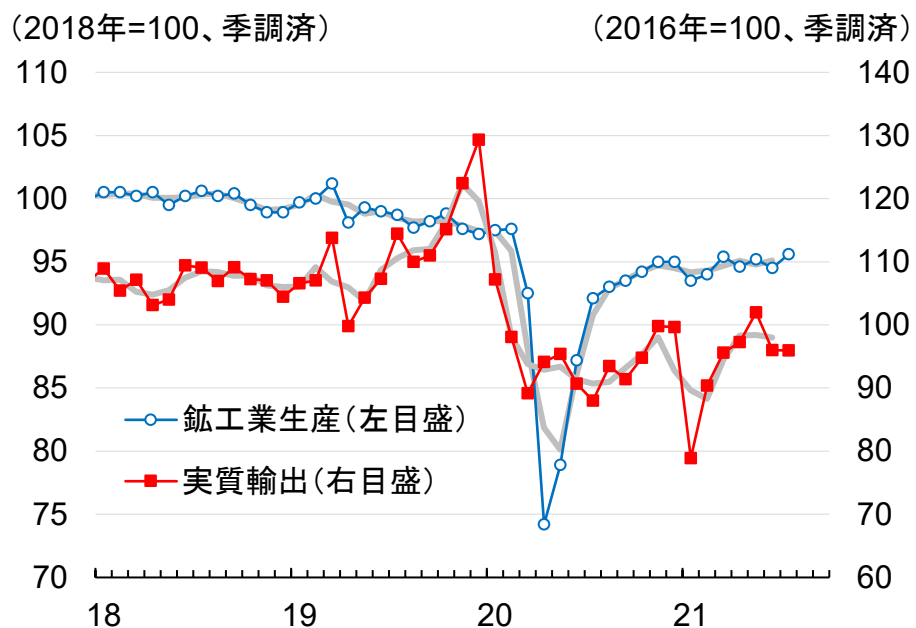


(出所)ONS

英国景気概況② 生産は横ばい

英国の7月の鉱工業生産は前月比+1.2%と再び増加したが、均した動きは横ばいとなっている。また同月の実質輸出も同-0.1%とほぼ横ばいであり、一進一退となっている。一方で、7月のサービス生産は前月比横ばいに留まったが、均した動きは回復トレンドを維持している。

生産と輸出



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均 (年、月)
(出所)ONS

サービス業生産

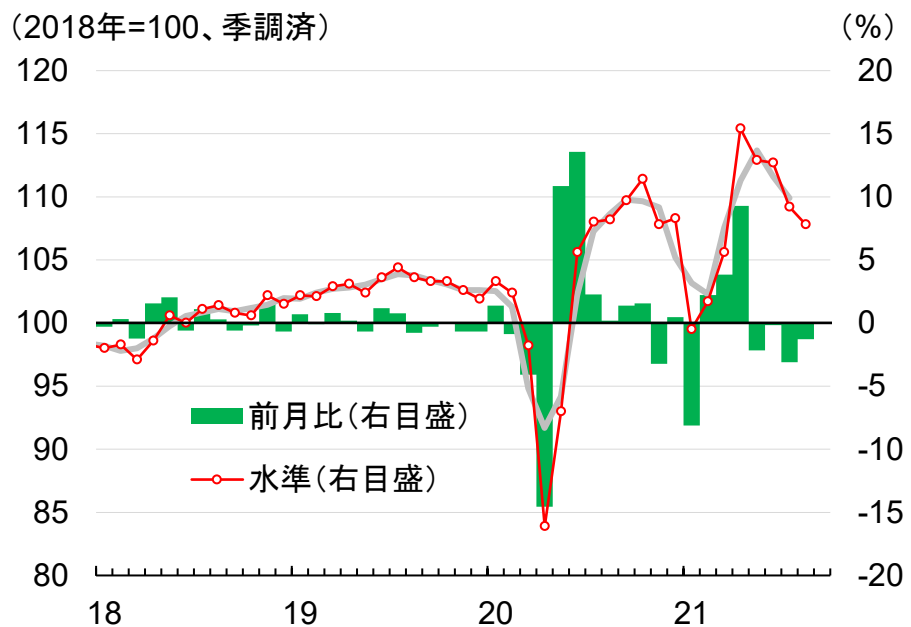


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均 (年、月)
(出所)ONS

英国景気概況③ 消費は悪化

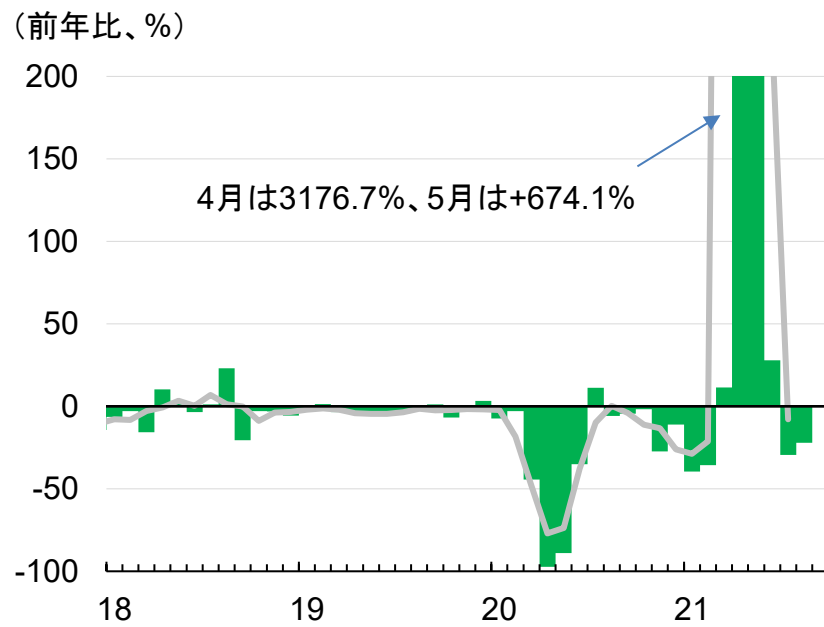
英国の8月の小売数量(除く石油)は前月比-1.3%と4ヶ月連続で減少した。また同月の新車販売台数(乗用車)は前年比-22.0%の6.8万台と、前月(-29.5%)に続いて20%台のマイナス幅を記録した。行動制限に伴い生じた繰越需要の一服に加えて、半導体不足の影響で新車の供給が停滞している模様。

小売数量(除く石油)



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS (年、月)

新車販売台数(乗用車)

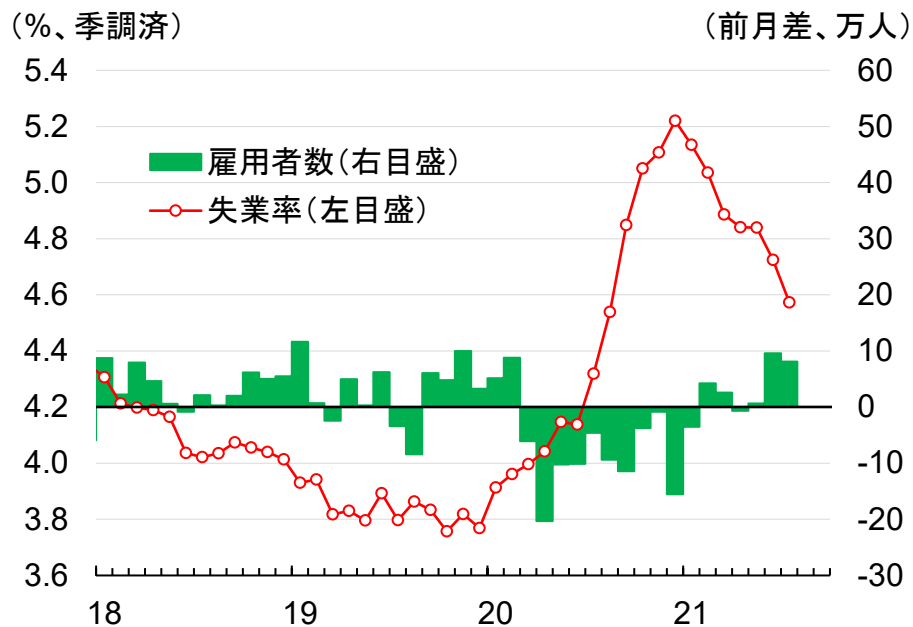


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS (年、月)

英国景気概況④ 雇用は改善

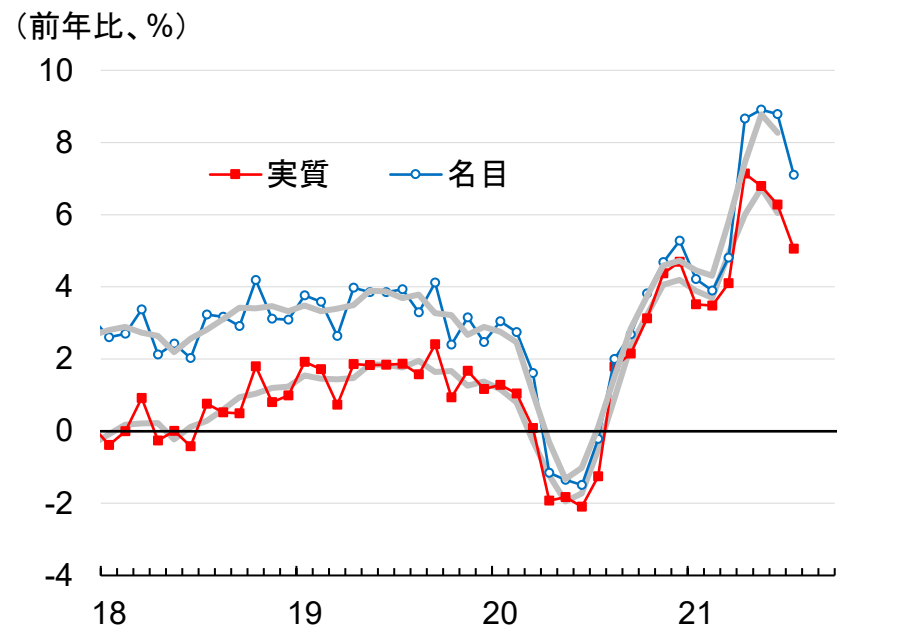
英国の7月の雇用統計(3ヶ月後方移動平均)は、失業率が4.6%に低下、雇用者数も前月比+8.1万人増加するなど、雇用は改善している。英国では労働需給がひっ迫しており、賃金上昇圧力も均して見ると高まっている。こうした雇用・賃金情勢の改善と慢性的なモノ不足が合わさる形で高インフレが定着することが懸念されている。

雇用統計



(注) 3ヶ月間の平均値 (年、月)
(出所) ONS

平均賃金(週給)

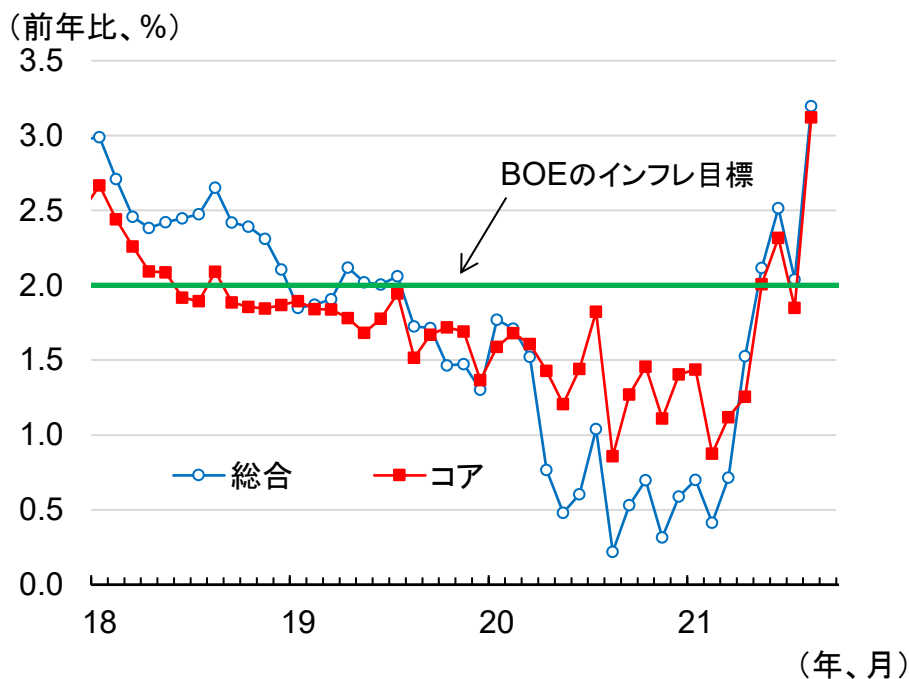


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均 (年、月)
(出所) ONS

英国景気概況⑤ 物価はインフレが加速

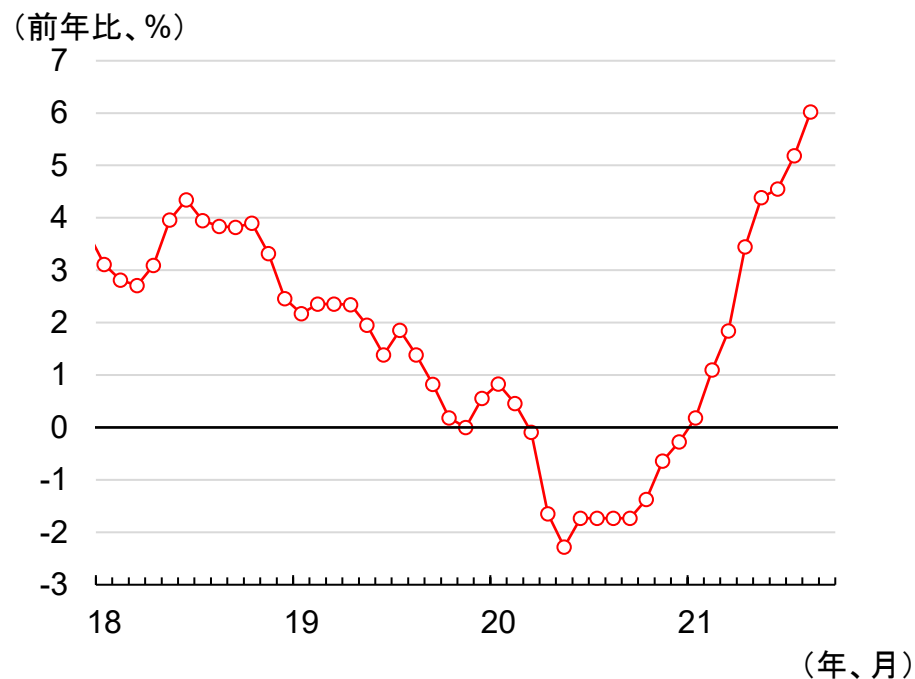
英国の8月の消費者物価は総合指数が前年比+3.2%と上昇が再び加速。昨年同期に英版Go To Eatが実施され飲食代が割り引かれたことの反動が大きな要因。ただ労働力不足に伴う物流の停滞、エネルギー価格の上昇も顕著。先行指標となる同月の生産者物価も同+6.0%とプラス幅の拡大が続き、先行きもインフレの加速が続くことを示唆。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(投入価格、除く関税)

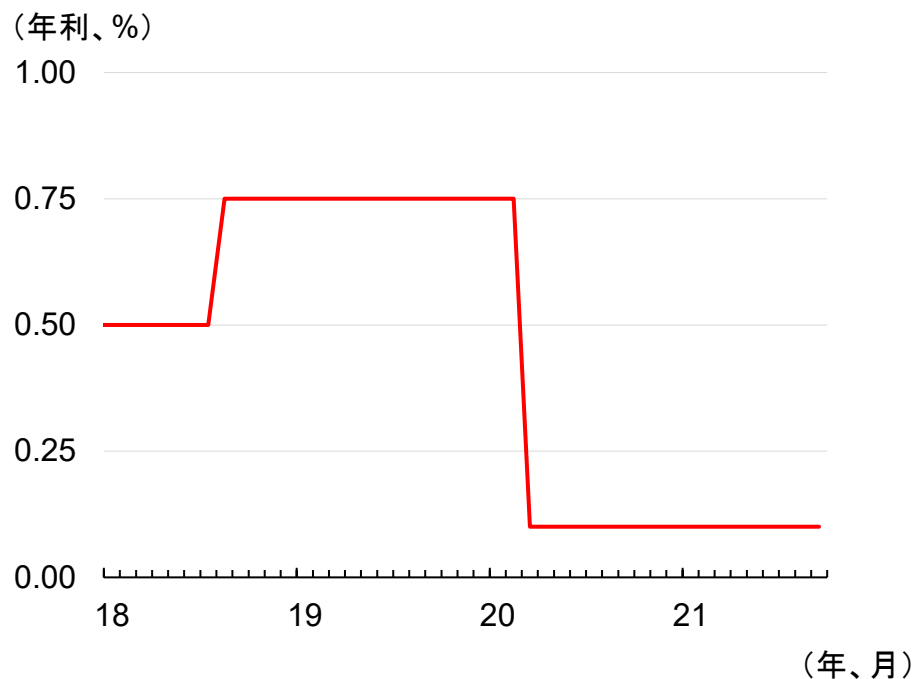


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは既往の金融緩和パッケージを維持

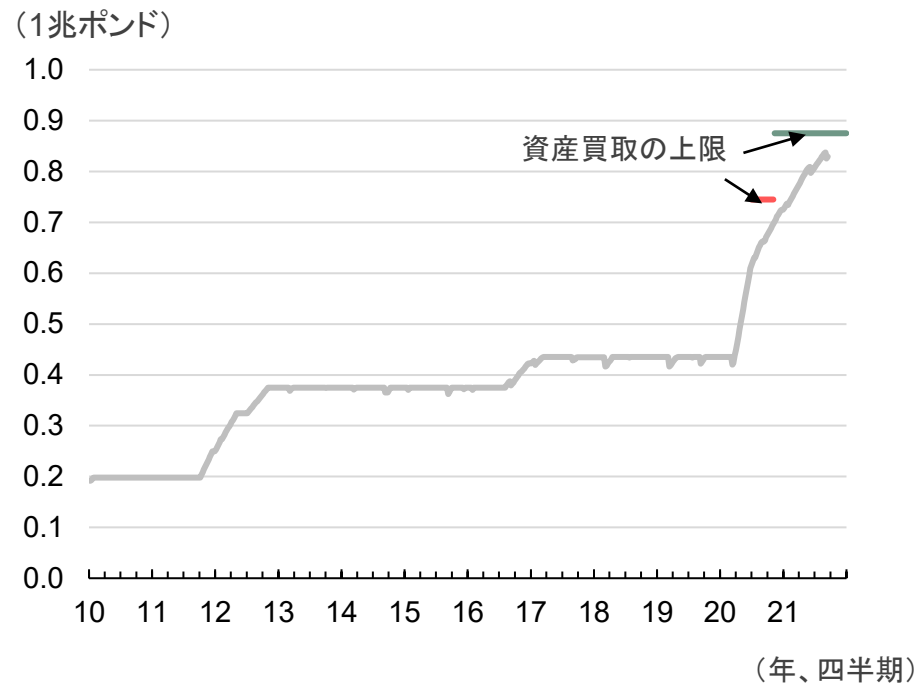
英中銀(BOE)は9月23日に金融政策委員会(MPC)を開催。政策金利を既往の0.1%に維持し、資産買取(国債)の上限も8,750億ポンドに据え置いた。BOEはインフレが想定よりも加速しているとし、年末までに4%に達するとの新たな見通しを示した。次回のMPCは11月4日を予定。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

英中銀の国債保有高

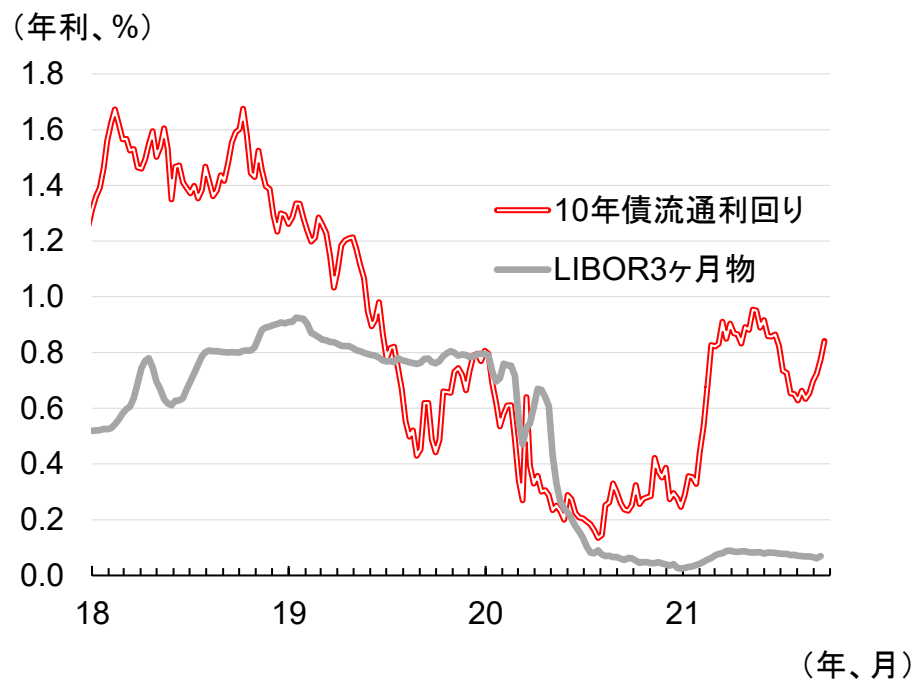


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 長期金利は上昇、株価は横ばい

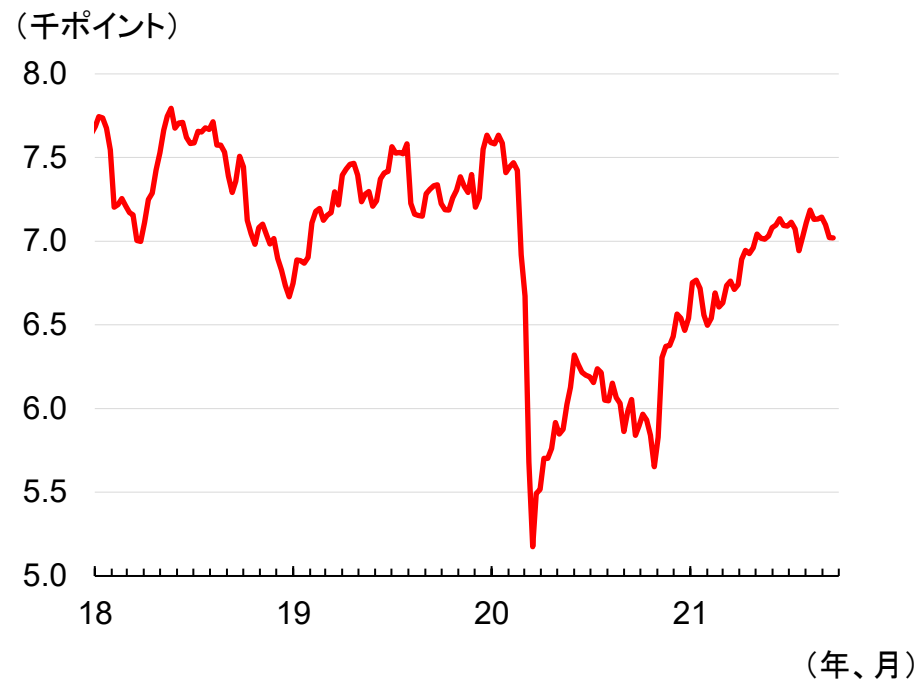
9月の英国の長期金利は上昇した。インフレの加速を受けたBOEの利上げ観測、また米連邦準備制度理事会（FRB）のテーパリング観測などが金利の上昇要因になった。一方で、株価（FT100指数）は横ばいとなった。中国の不動産問題や米国の債務問題が相場の重荷になる反面で、好決算が株価を下支えした。

金利



(出所)BOE

株価 (FT100指数)

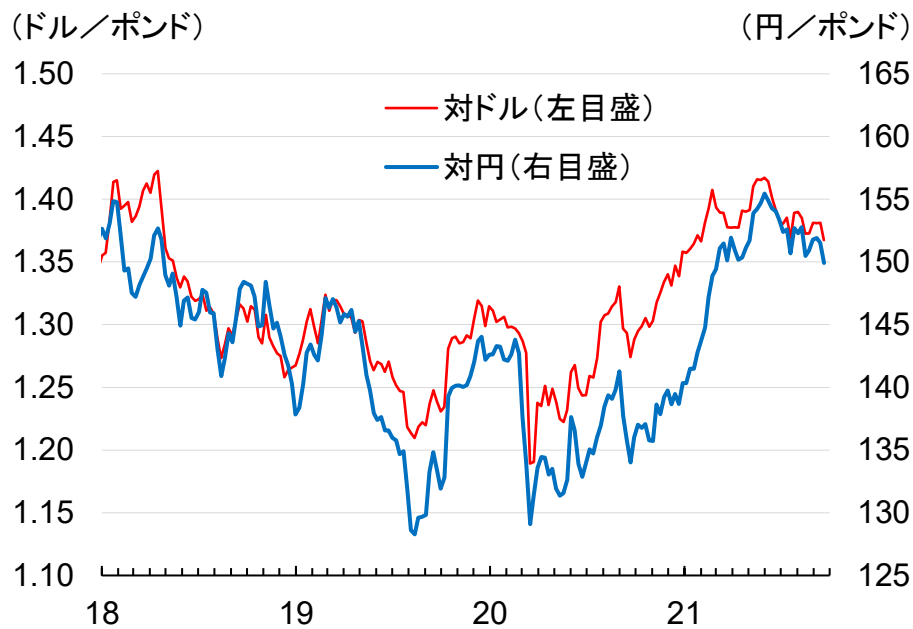


(出所)BOE

英国景気概況⑧ 対ドルでポンド安、対円で横ばい

9月のポンド相場は対ドルでポンド安、対円で横ばいとなった。世界的な米ドル中が続く中で、これまで買いが先行していたポンドに下落圧力がかかった模様。国際収支は経常収支の赤字幅がGDPの3-4%程度で推移しており、実需面からのポンド売りにつながっていると考えられる。

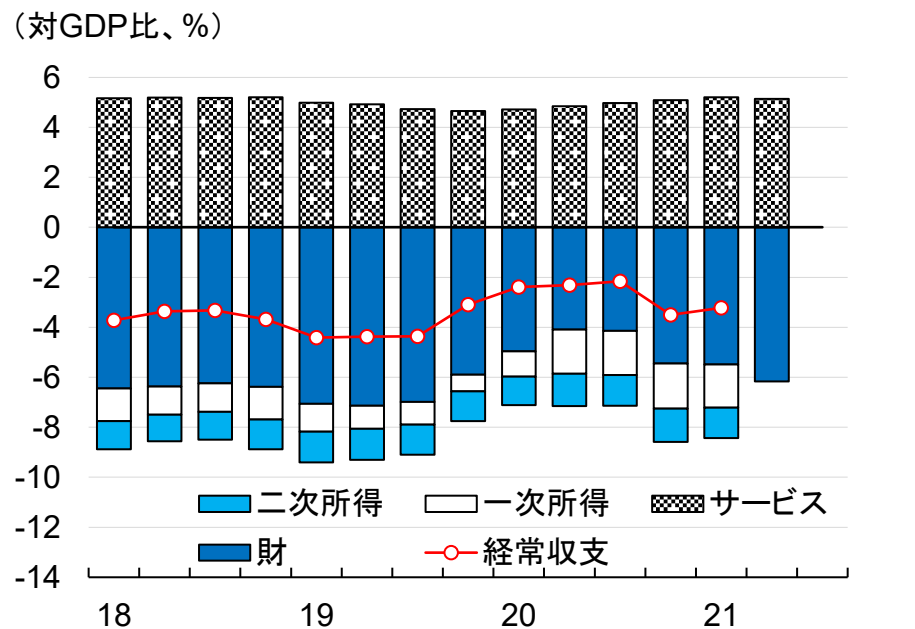
ポンド相場



(注)週次レート
(出所)BOE

(年、月)

国際収支



(出所)ONS

(年、四半期)

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 土田陽介 TEL:03-6733-1628 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒108-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください